

4-1. 典型的な里地里山の選定等にかかる関連施策の動向

地域における典型的な里地里山の選定の参考として、国や地方公共団体による地域の選定等の動向を調査した。大きく以下のような目的のもと実施されており、選定基準・方法については、保全等の活動、地域生態系、景観、生活・文化といった観点を取り入れたものが多かった。

- 事例件数: 全19件
- 選定主体別事例件数: ※市町村の事例については未調査  
国(7件)、都道府県(10件)、その他(2件)

●選定目的別にみた選定基準・方法 ※各事例の詳細は別紙(表4-1)参照

選定の主な目的	事例名称(選定主体)	主な選定基準	主な選定方法
I. 活動の拠点確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>○里地里山保全再生モデル事業(環境省)</li> <li>○モニタリングサイト1000里地調査(環境省)</li> <li>○ため池百選(農林水産省)</li> <li>○水の郷百選(国土交通省)</li> <li>○とちぎのふるさと田園風景百選(栃木県)</li> <li>○「里地里山保全等地域」の選定(神奈川県)</li> <li>○いしかわの里山生態系(石川県)</li> <li>○「先駆的里山保全地区」の選定(石川県)</li> <li>○守り伝えたい福井の里地里山(福井県)</li> <li>○「里山整備利用地域」の認定(長野県)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や地域資源の利活用、適切な保全、維持管理がなされている</li> <li>・保全等の活動が行われている</li> <li>・保全等の機運が見受けられる</li> <li>・地域活性化に活かされている</li> <li>・生物多様性が高い</li> <li>・RDB種の代表的生息地、繁殖地等</li> <li>・特色ある歴史、文化</li> <li>・後世に継承すべき風景、昔ながらの景観が維持されている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・候補地の公募→選定委員会等による審査・選定</li> <li>・対象候補地等への一般投票</li> <li>・市町村からの対象候補地の申出等により県が選定</li> <li>・RDB掲載種の分布情報等をもとに選定</li> </ul>
II. 地域の景観等への評価・顕彰	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本の棚田百選(環境省)</li> <li>○重要文化的景観(文化庁)</li> <li>○沖縄、ふるさと百選(沖縄県)</li> <li>○にほんの里100選(朝日新聞・(財)森林文化協会)</li> <li>○関西自然に親しむ風景100選(地球環境関西フォーラム)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な維持管理がなされている</li> <li>・地域の生活(営み)、生業、風土により形成された景観地</li> <li>・地域資源を活かした交流がある</li> <li>・一般の人が訪れやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各都道府県からの推薦→選定委員会等による選定</li> <li>・候補地の公募→現地調査→選定委員会等による選定</li> </ul>
III. 対象地等の保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「里山環境保全地域」の指定(山形県)</li> <li>○「里山保全地域」の指定(東京都)</li> <li>○守り伝えたい福井の里地里山(福井県)</li> <li>○「ふるさとの原風景再生事業」における重要里地里山の選定(長崎県)</li> <li>○[参考] 平成の名水百選(環境省)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性の確保</li> <li>・RDB種の代表的生息地、繁殖地等</li> <li>・保全対象の動植物の生息・生育地</li> <li>・自然環境の回復が望める</li> <li>・人的関与による保全・維持</li> <li>・伝統的利活用がなされている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な主体による検討会議開催→情報収集・現地調査→選定</li> <li>・候補地の推薦→検討委員会等による検討・選定</li> </ul>

## 4-2. 各地域における典型的な里地里山の選定等に関する検討方針(案)

国土の約4割を占める里地里山の広がりを考慮すると、里地里山の保全活用では地域の特性に応じた取組対象の設定が必要であり、その際には地域ごとに典型的な里地里山の保全活用が確保されることが必要。

このため、自然的・社会的要素を踏まえた地域単位を設定し、生物多様性や社会的条件などから典型的な里地里山を、生態系ネットワークも考慮しながら設定するための考え方、手法について検討する。

### ①典型的里地里山選定の考え方の整理

- ・類似事例、参考事例の収集整理
- ・選定の観点や選定の際に考慮に入れるべきこと
- ・生態系ネットワークの捉え方(文献等の整理)
- ・里地里山保全活用で配慮すべき事項

### ②選定に向けての具体的手順と手法の検討

<選定の観点別に分析・評価手法、基準等について整理>

- ・地域単位の設定
- ・地域の社会的・自然的特性の分析・評価
- ・地域の意向を反映した「典型的」里地里山選定方針の設定  
(保全活用目的、観点の明確化)
- ・選定のための評価基準の設定・適用
- ・地域における典型的里地里山の選定

### ③選定した里地里山の保全活用を進めるための手法の検討

- ・生態系ネットワーク考慮を前提に、目的(選定の観点)及び地域の特性・条件に応じた保全活用手法の検討

### ④選定に必要な客観的データの提供、あるいは入手先の明示

### ⑤次年度の検討計画のとりまとめ

#### 例:「典型的里地里山」の例示

- \* 生物多様性保全上特に重要な里地里山
- \* 生きものと共生する農林業が盛んに行われている里地里山
- \* 伝統的生活文化やふるさとの景観が見られる里地里山
- \* 自然体験・環境教育の場としての活用が盛んな里地里山

#### ※生物多様性保全の観点からみた「典型的里地里山」の例

○対象地域の生態系の中で、生物間の相互作用や生態系の機能に重要な役割を担うような種・群集(例えば、植物では現存量や占有面積の大きい種、動物では個体数が多い種や個体重が大きい種、代表的なギルドに属する種)など、生物群集の多様性を特徴づける種や生態遷移を特徴づける種などが対象となる。  
また、環境の階層的構造にも着目し、選定する必要がある。

～生態系アセスメントにおける「典型性」の考え方より～

#### ○地域単位の設定

例1) 里山里海サブ・グローバル評価:

生態系の変化が人々の暮らしに与える影響を評価。  
生態学的・機構的・社会学的な要素からサイトをクラスタリング。

例2) 国土区分:

生物学的・気候的な条件から、国土を10区分